

はじめに

このお話は比較的年長向けのものです。ここでは、大いに身ぶり手ぶりでお話をしてください。特に、猿がしっぽを川に入れるところやひっくり返る場面などは、おもしろおかしくやってみる事です。それと、話の途中で子どもが「知ってる！」など“横やり”を入れても、決して「黙ってお聞き！」などととがめてはいけません。子どもが満足するまで言わせること。第一、子どもの「知ってる！」はお話を歓迎する意味なので、「よく知っているねえ」とほめて話を続ければいいのです。真剣に聞けば聞くほど、それなりの感想を持つし、質問、疑問が出たら「しめた」と思ふべきです。集団に話を聞かせる場合は、一定の收拾策を考える必要もあるかも知れませんが、一対一なら様々な反応を喜びましょう。漢字は「森、熊、兎、狸、狐、猿、鮭」それに「寒い冬、氷」も提出可能。“魚”は抽象的概念で具体的な実在ではないので提出する必要はありません。

これから先生が皆さんにおもしろいお話してあげましょう。

そのお話は「お猿の顔はなぜ赤い」。

お猿さんて真っ赤な顔をしてるでしょう。どうしてあんなに赤いお顔

をしているかというその訳を、これから皆さんにね、お話してあげます。そんなこと知らないでしょ、みんな。

「知ってる！」

おっ知ってる、お猿の顔が赤い訳。どうして？ 知らないでしょう。お猿の顔が赤いってこと知ってんのね。うん、なぜ赤いかってことはわかんないね、それをこれからお話してあげます。

お猿さんはね、あんなに顔は赤くなかったんですよ、もとは。そのころお猿さんは、森の中に住んでいました。この森の中にね、いろいろなお仲間がいましたよ。これなんだか知ってるかな？

「クマ！」

熊、そう熊さん。それからね、これなんだろうな？

「ウサギ！」

そう兎さん。それからね、これもいましたよ。

「ネコ！」

あっ猫かな？ これ。

「タヌキ！」

そうこれ狸でしたね、狸になりました。はいそれから？

「キツネ！」

そう狐さん。いろいろなお仲間がこの森の中にいました。お猿さん

も、その仲間でしたわけです。

ある日のことです。この熊さんがね、こういう魚をとってきたんです。知ってるかな、熊さんは鮭という魚をとるのがとても上手なんです。知ってる？

「知ってる」

そう、川を上ってくるねえ、海から川を上って、鮭はやってくるんです。それをね、この熊さんはね、うまくつかまえるんです。そうしてみんなにね、ごちそうしたんです。

猿さんはいつも何を食べているかという、くだものだとか……、

「バナナ！」

それからバナナなんかも食べる？

「リンゴ！」

リンゴ食べる？ そうですね、お山に落ちているどんぐりだとか、そういうものを拾ってね、食べているんですけれども、魚なんかはね、一度も食べたことがありません。

熊さんに初めてお魚をもらって食べた。とってもおいしくてね。

「はあ、ぼく生まれて初めてこんなにおいしい物を食べた。熊さん、熊さんはいいねえ、こんなおいしい鮭をいつも食べられて。ぼくにその魚のとり方を教えてよ！」

熊さんは「猿さんには無理だよ」 こう言って教えてくれませんでしたけれども、そのうちにあんまり猿さんが熱心に「教えて、教えて」つて言うもんだから。

「じゃあ教えてあげよう。それはね、夜、暗くなってね、川へ降りて行って、そしてね、川の中にしっぽを垂れていると、じっとしているとね、そのしっぽにね、パクッと魚が食いつくんだよ。そんな時痛いよ、痛いけどね、じっとがまんして、そうしているとね、ますますかたあくね、いっしょうけんめいになって食いついてくる。うーんと食いついた時にですね、しっぽをぴょこんと上げるんだよ。そうするとね、しっぽに、お魚がかみついたまんま上がってくる、そこをつかまえるのさ」

「ああそうなの、そんなことならぼくにもできそうな気がするよ。ようし、じゃあさっそくやってみる」

そこでね、お猿さんは夜になるのを待ちました。冬の寒い晩でした。冷たい風がピューと吹いてくる。ところが猿さんは、お魚を食べたい一心で川へ降りて行きました。そして、冷たい川にしっぽを入れました。「うう寒い」 お猿さんは、ブルブルつてふるえました。でも、がまんしてしっぽをつけていました。しかし、いつまで立ってもしっぽになんにも食いつく様子はありません。ああ、早く食いつかないかなあ、早く食いつかないかなあ。お猿さんはしっぽをつけてねえ、またがま

だかと待っていました。

そのうちに、なんだか、しっぽに食いついたようです。じわじわ、じわじわと、しっぽが締め付けられるようです。

「あっ食いついてきたぞ、ここで少し辛抱するんだなあ」そのうちにしっぽがだんだん痛くなってきます。ぎゅーとかみついているようです。「んー、ようし、もういいだろう、ここでしっぽをぴょいと動かすんだな」ところがしっぽを動かそうとしても動きません。「わー！ これは大きな魚が食いついたぞ、んーッ」とお猿さんは顔を真っ赤にして力を入れました。

「んーッ」しかし、しっぽは動きません。「わーこれは大変だ、うっかりするとこの魚に食べられてしまう。ようし魚とぼくの力比べだ。いち、にいの、さーんッ」

うんと力を入れてしっぽを動かしたら、お猿さんそこにひっくりかえってしまいました。しっぽが切れていました。よく見たら、なんとしっぽが川に残っていました。それは冬の寒さで、川の水が凍りついて、しっぽがその氷の中に残っていたそうです。魚がかみついたのではなくて、凍りついていたんですね。

それじゃあ、いっしょうけんめいに力を入れてもなかなか上がらなかったわけですね。

こうしてねえ、お猿さんのしっぽは切れてしましまして、その時、いっしょうけんめいに顔に力を入れてね、がんばったために、顔が真っ赤になってしまって、今でも顔が赤いんだそうです。それからお尻も赤いね、お尻だっとうんと力を入れたから、やっぱりお尻も赤くなったんです。そしてお猿のしっぽは短いでしょ、ねえ、あれはねえ、プツーンと切れてしまって、それで短くなっているの。今でも猿のしっぽは短いんだそうです。

「お猿の顔はなぜ赤い」 お話はこれでおしまい。(拍手)
はいどうもありがとう。さて、えーこれなんていう字かな？

「モリ！」

森、はい熊、はい兎、狸、狐、猿。

「サカナー！」

魚だけどなんていう魚だっけ。

「サケ！」

鮭というこれは魚だね、はい。みんな字を、今日は覚えてください、この字をね。はいそれでは、お話はこれでおしまいです。(拍手)